

トピックス

用語としての「ソーシャル・キャピタル」の偶然

CNCP 常務理事 有岡正樹



NPO 法人活動に関わって「ソーシャル・キャピタル」という言葉を目にしたのは、2012年の東洋大学で開かれた第16回日本NPO学会に参加した時である。予め配布されてきた学会のセッションごとのレシメの中にそれが一つのテーマ（キーワード）として取り上げられていた。それまで40年以上土木工学の分野一筋で生きてきた自分にとっては、ソーシャル・キャピタルというと「社会資本」であり、ひいては「社会基盤」である。我々の関わっているNPO活動がインフラストラクチャー分野でも適用されていると、勇んでその会場に足を向けたのだが、その言葉が「社会関係資本」と日本語に訳されて議論される、社会学や経済学分野での用語であることを知るまでにそんなに時間は掛からず、軽い失望を感じたのを憶えている。

帰宅してウェブで検索してみると、‘ソーシャル・キャピタルを直訳すれば「社会資本」で、これは電気水道や道路といった都市基盤のようなハードな資本（インフラストラクチャー）を意味する語として日本語で使われているが、社会学や政治学、経済学といった分野では人間関係の豊かさこそを社会の資本としてとらえるソフトな概念をあらわしている’ようである。少し噛み砕くと、‘人々の協調行動が活発化することにより社会の効率性を高めることができるという考え方のもとで、社会の信頼関係、規範、ネットワークといった社会組織の重要性を説く概念’で、NPOの学問分野ではソーシャル・キャピタルが「社会関係資本」という日本語訳を用いて議論され、学会・講演会や関連図書で散見される理由が分かった次第である。

一方、土木学会土木用語大辞典で「社会資本」を引いてみると、‘社会的に共通の資本、生産や消費等の一般的な経済活動を支える資本であり、私的な動機による投資に委ねていると、経済社会の必要性から見て、その存在量が不足するか、著しく不均衡になるなど望ましくない状況に置かれるであろうと考えられる資本をいう。広義には、道路、港湾等の社会基盤施設のみならず、法と秩序、教育、衛生等が含まれる広義な概念であり、インフラストラクチャーともいう。’とある。英語では social overhead capital と表して、ソーシャル・キャピタルの間に、‘overhead’ という一文字が入っている。この英文字を総括的に解釈すると、著名な経済学者宇沢弘文博士がその著『社会的共通資本』（岩波書店、2000.11）のはしがきで ‘ゆたかな経済生活を営み、すぐれた文化を展開し、人間的に魅力ある社会を安定的に維持することを可能にする社会的装置で、具体的には、森林・大気・水道・教育・報道・公園・病院など産業や生活にとって必要不可欠な社会的資本を示す’ と述べている ‘共通’ という語に ‘overhead’ が対応する、と勝手に思ったりしている。

少し話が変わるが、去る7月31日小職の担当するCNCP教育研修委員会企画の第1回セミナーを、「シビルNPOで次なるステージでの活躍のために」と題し、内容的には以下の2点について、講演とワークショップの組み合わせで実施した。

- (1)「市民連携のスキルとは？ ～参加のデザインを学ぼう～」
- (2)「自治体等への技術支援の可能性」

前者はソーシャル・キャピタル（「社会関係資本」）、後者は土木工学でいうソーシャル・キャピタル（「社会資本」：インフラストラクチャー）に、それぞれ通ずるところがあり、いわば何らかの形でNPOが関わるインフラ行政の両輪である。CNCPの地域活動支援部門では、自治体インフラメンテについて議論を始めているが、それに先立っての自治体インタビューで出た意見でも、公共施設の統廃合についての合意形成の難しさを述懐している行政もあった。

上記土木用語大辞典の英文索引でsocial capitalを逆引きしてみても、それに対応する日本語はないので、土木技術者による前者のソーシャル・キャピタル（「社会関係資本」）に対する関心は大きくはないようだ。一方、9月12日日本大学法学部の図書館内マルチメディア教室で開かれた、ソーシャル・キャピタル研究会に参加して、東洋大学経済学部今村肇教授による「社会連携経済・社会的企業と社会関係資本」という講演を聞き、そのあと懇談会での意見交換でも「社会的共通資本」との関係を質してみたが、それに類する話はほとんど聞かない、とのことであった。学際化の対象になるかどうか分からないが、これからも継続的に続けようとしているCNCPセミナーでも折に触れてそんな議論を、と考えている。

本通信末尾の「イベントのご案内」に示すように、11月19日に仙台で「第2回市民パワーアップ・セミナー：シビルNPOが市民連携の視点で果たせる役割とは」と題して講演とワークショップを企画した。短時間に両輪を回すのは、虻蜂取らずになることを第1回セミナーで学んだので、今回は半日、上記の主として(1)に集中することにした。もちろん1日かけて両輪を回すことも考えている。ぜひ有意義なセミナーとして継続したい。

